

2019年
11月10日

No.252

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
さざなみネット
 (金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
 TEL・FAX 077-545-5154

近畿地協第14回定期大会

現場の力を発揮し 地域金融機関としての役割を果たそう

10月26日、近畿地協第14回定期大会が大阪国労会館で開かれ、代議員・役員など23人(委任状4人を含む)が、さざなみネットからは山崎書記長が参加しました。

主催者を代表して岡野議長は「地球温暖化による相次ぐ台風で甚大な被害が発生している。莫大な防衛費の積み上げより、本当の意味での安全対策が求められている。キャッシュレスの取り込み合戦の陰で、消費税増税により小売店が廃業に追い込まれたり、高齢者などが置き去りにされて



岡野議長があいさつ



来賓あいさつ
金融労連中島委員長

いる。個人情報のデータ化の怖さ、マイナンバーカードの普及誘導など、真の狙いを見極めることが大切。AI化が進んでいる地域金融機関の職場では、展望が見えず、短期の成果を求められ、やりがいも無く退職者が増えている。地域の顧客と日々向き合っている現場の力を発揮し、地域金融機関だけが生き残るのではなく、地域金融機関としての役割を果たすため、組合、経営、業界、地域も巻き込んだ取り組みが必要。広く学び、周りに関心を持って魅力的な取り組みをしていこう」と挨拶しました。

来賓として、金融労連本部・中島委員長、大阪労連・嘉満事務局長から、金融情勢や政治などの報告と激励の挨拶を受けました。

議案提案後の討論では、「兼業・副業」実施についての報告や、春闘交渉で、契約社員に1400円の賃上げがあり、お任せではなく自らの思いで交渉を行い、勝ち取れた喜びが伝えられ、会場にも勇気と元気が伝わりました。

職場での相次ぐパワハラ発生への組合としての対応の報告や、今後の取り組み等について、春闘に向け全体で取り組む課題として、非正規の無期雇用に合わせて退職金の要求を取り組むなど発言がありました。

全議案が満場一致で採択、新役員が選出され、最後に、吉良幹事の音頭で団結ガンバローを三唱し、閉会しました。

選出された新四役(会計監事・敬称 略)

議長 岡野展子(池田泉州) 副議長 辻昇三(金融ユニオン)
 事務局長 阿部正巳(京都北都) 事務局次長
 伊藤宗孝(金融ユニオン)・松島照男(金融ユニオン)



近畿地協役員 代表して岡野議長があいさつ



秋海棠

岩波 美智子さん 画

地域・職場・青年革新懇全国交流会in神戸

本気の「市民と野党の共闘」で希望ある新しい政治へ道を拓こう

10月19～20日に地域・職場・青年革新懇全国交流会in神戸が開催され、「参院選を土台に私たちが安倍政治を終わらせる」「本気の『市民と野党の共闘』で希望ある新しい政治へ道を拓こう」をテーマに交流を行いました。19日の神戸文化ホールでの全体会は全国から過去最高の1800人以上が集まり会場はいっぱいになりました。さざなみネットから植木さんが全体会に参加しました。

連帯あいさつでは、憲法学者の小林節さんは、「9条改憲は突然やってくる。野党が心ひとつに闘えば勝てる」と訴えました。総がかり行動実行委員会の共同代表の福山真劫さんは、「国民連合政府構想について、条件は確実にできつつある。共闘の実態をもう一步進めることが必要だ」と力説しました。また、首都圏原発連合のミサオ・レッドウルフさんは、「野党共闘が可視化されてきた。共闘を広げ衆院選に」と呼びかけました。

共産党の志位委員長は特別発言で、「4年間の国政選挙を経て、『市民と野党の共闘』が安倍政権にとって脅威になっている。さらに共闘のバージョンアップが必要で、野党連合政権をつくるために話し合いを呼びかけている。野党共闘は多様性のなかの統一が大事。違いがあっても一致点を大切に共闘する。みんながひとつの輪に入ってくることが大事。日本共産党は市民のみなさんと手をつないで力を尽くします。いまこそ革新懇の出番です」と訴えました。



会場いっぱいの全体会

感想 男性が多いこと。今まで参加した母親大会・新婦人は当然ですが、歌声、原水禁、年金組合などと比べて、現役時代に組合をバリバリやっていた人でしょうか。やっぱり労働者にしても、人としての生き方にしても、闘う労働組合はとても大事です。年は取ったけれど平和憲法を守るため頑張ろう。

「革新懇運動を継承するためにも、次の交流集会には自分の孫を連れて来ましょう」との呼びかけがあり、会場は笑いに包まれました。どの組織も抱える後継者問題を明るく語りかけてもらい、「まだまだこれからだ」と元気に帰路につけた交流会でした。

いわさきちひろ生誕100年 前進座公演「ちひろ」

10月20日、栗東芸術文化会館SAKIRAで、前進座公演「ちひろー私、絵と結婚するのー」が公演され、観劇してきた。



1974年に55年の短い生涯を終えるまで、「世界中の子どもたちの幸せと平和」を願い、絵筆を握り続け

たいわさきちひろ。ちひろがその生き方を決めた原点とも言える、戦後すぐの3年半の絵描きとして自立しようという熱い思い、そして消せない過去との葛藤が描かれている。

毎日ちひろカレンダーを見て生活しているが、ちひろの描く子どもは愛らしく優しく、心をなごませる。しかし、ちひろは命の象徴として子どもを描き続けた。それは戦争中にたくさんの無垢な子どもの命が奪われていくことを目の当たりにしたからであり、同世代の若者をはじめ無数の命が思い半ばに消えていったことを知っていたからであろう。愛らしい向こうにある強さと、思いの深さを感じていきたい。

族館でした。

(奥村)

愛知県蒲郡市にある竹島水族館は、日本で3番目に小さい水族館で閉館寸前まで追い込まれ、経験者や熟練者達が職場を去る中、館長を含む13人は、魚の説明を活字でなく手書きで作成し、ある時は見学者になりすまして来館客の会話や反応を観察したり、他府県の水族館で余っている魚を貰ってきたりして、面白くて大人気の水族館にし、年間12万人程だった入館者が45万人に増加、今なお入館者が増えつつあるそうです。外見は水族館らしくなく中はこじんまりしていて、水槽も小さいので魚と向き合う事ができるので、見学時間を短く感じる程の魅力ある水族館でした。



竹島水族館を訪ねて

多くの生き物との距離がとて近づく感じる水族館